



妊娠中の他科（歯科を含む）受診について



他科の医師が、妊娠中は胎児への影響を心配して通常の治療をためらうことがありますので一般的な注意点を、お知らせします。

1) 検査；

腹部のCTスキャン、大腸のレントゲン検査は、必要ならまず当科に、ご相談ください。超音波検査は可能です。MRI検査は妊娠12週以降安全とされています。

2) 抗生物質；

セフェム系が第一選択で、ペニシリン系、マクロライド系も安全です。ニューキノロン系は禁忌です。

3) 鎮痛消炎剤；

いわゆるNSAIDSは特に妊娠中期以降は好ましくありません。初期の使用に関しても、効き目はやや弱いですが、一般名；アセトアミノフェン（製品名；カロナール、ナパなど）が安全です。

4) 局所麻酔；

歯科治療でよく行われますが、可能です。妊婦とその他の人を特に区別する必要はなく、一般的な注意で結構です。

5) レントゲン撮影；

妊娠初期の器官形成期（胎児の発育初期で、奇形が起こりうる時期）でも、通常の単純撮影であれば、奇形発生の危険な線量（閾値といいます）を越えることはまずありません。腹部が照射野でなければ、胎児の被曝線量はほぼゼロです。

ゆえに、肺炎が疑われるときの胸部単純撮影、歯科の顎のレントゲン撮影、整形外科での手足のレントゲン撮影などは心配ありません。心理的には、お腹を隠す鉛入りの重いエプロンがあればいいかと思います。造影検査やCTスキャンは、先に相談してください。

以上よく質問される事柄について説明しました。この書類を受診しようとする他科の医師に見せて相談されると便利かと思えます。さらに説明を希望される場合は遠慮なく、外来担当医にお申し出ください。



わかば・産婦人科

〒675 - 1367兵庫県小野市敷地町1500 - 5

T E L : 0794-62 - 6111 / FAX : 0794 - 62 - 8158